



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compound)インキ
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。
大気中への有機化合物の揮発はほとんどあり
ません。



FSC® 認証用紙
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されて
います。



Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で
印刷しています。

 **フジトランス コーポレーション**

2017年7月発行

本社
〒455-0032 愛知県名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111 FAX:052-652-7110
<http://www.fujitrans.co.jp/>

 **FUJITRANS**

CSRレポート

FUJITRANS CORPORATION CSR REPORT 2017

2017

「和」でつなぐ人と社会

Environment
Protection

Social
Action

Safety
Management

Compliance

Quality
Control

FUJITRANS

目次

Contents



- 02 CSR方針／運営体制
- 03 トップメッセージ
- 05 会社概要
- 07 【特集】
生まれながらの環境経営企業です
フジトランスの環境保護の取り組み

法令遵守への思い

- 11 コンプライアンス強化月間
コンプライアンスアンケート調査
- 12 勉強会の実績
- 13 「フジトランスグループ行動規範」制定
ストレスチェック制度の導入
過重労働解消キャンペーン
育児・介護休業法の改正への対応
- 14 健康講話会・個別健康相談会
弁護士相談の実施
内部監査室による内部監査の実施

安全の追求・品質の向上

- 15 万全な管理体制を構築
- 16 ゼロ災キャンペーン
- 17 酸素欠乏症防止キャンペーン
フォークリフト安全運転強化キャンペーン
- 18 経営トップ 乗船安全点検
緊急時海陸通報訓練
- 19 全国安全会議
安全・安心職場づくり報告会
激励の日
- 20 リスクを予見した安全啓発
船舶緊急訓練

環境への取り組み・社会地域とともに

- 21 足船清掃
新入社員グリーンオリエンテーション
- 22 清掃奉仕活動
海藻の養殖で障害者施設を支援
被災地支援
- 23 放流事業
事務所周辺美化活動
- 24 ビーチクリーン
小学生社会見学
交通街頭立ち会い

- 25 2016年度CSR活動実績



CSR方針

フジトランス コーポレーションは、「『和』の精神」を社是に掲げています。「和」とは、人の和を尊重し全体的な信頼と協調を基に一致団結する「内なる和」と、地球環境・地域社会・お客さま・協力会社との調和・協和・融和を基にした「外なる和」の二つから成り立っています。

その精神のもと、従業員がお客さま・地域社会とともに成長していこうという思いを込め、CSR方針を「『和』でつなぐ人と社会」と決めました。そして、私たちがCSRを実践すべき三つの活動領域を設定し、それぞれに分会を設けて活動を推進しています。

企業として取り組むべき領域

- 法令と社会規範を守り、常に誠実で公正な活動を行う。
- 企業は社会の一員であり、良き企業市民として成長・発展していく。

本業そのものがCSRとなる領域

- 物流事業者の使命として、安全で高品質なサービスの提供をする。

社会へ感謝する領域

- 地球環境に配慮し、快適な社会と地域づくりに貢献する。
- 社会から学んできたことに深く感謝し、社会の期待や希望に応えていく。

運営体制

CSR推進委員会

代表取締役社長

委員長・副委員長

事務局

法令遵守分会

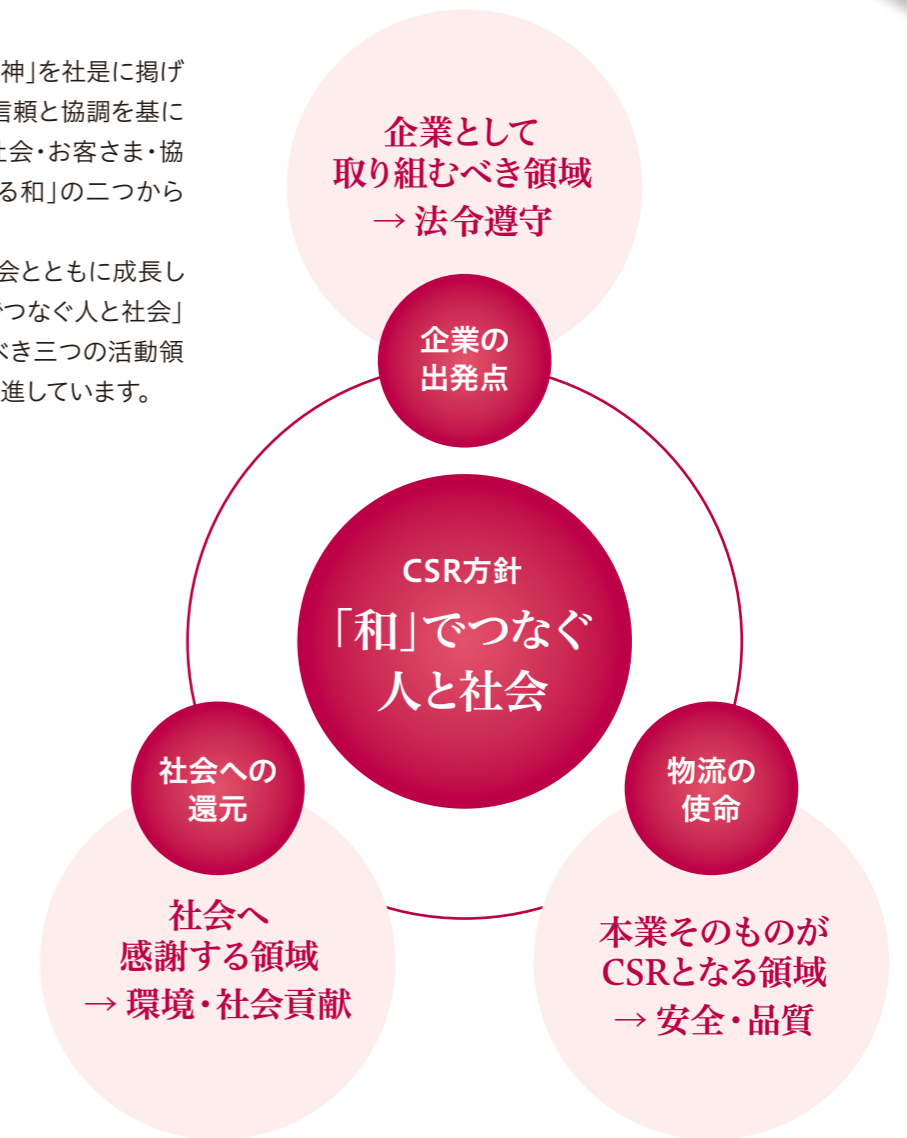
従業員一人一人が法令と社会規範を守り、高い倫理観を身に着けるための教育と啓発を推進

安全・品質分会

安全作業および安全運航を目指す活動と、お客さま満足に向けた品質向上活動を推進

環境・社会貢献分会

環境・社会貢献活動の推進と参加型企画の立案および実施



トップメッセージ

原点回帰

～65年目のCSR～

代表取締役社長 系井辰夫



スの上に成り立っていた私たちの生活にも影響がはじめています。

変動する社会

2016年度(2017年3月期)は、世界の政治と経済にとって、大きな転換点と言える年でした。

その最たるものが11月に行われたアメリカ大統領選挙で、新政権の樹立によりアメリカは、自国経済を最優先とする保護貿易主義に転じました。これにより、為替は円安方向に急伸し、それまで円高で振るわなかった輸出企業の業績は、好調な景気も相まって回復に転じました。片や、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)はアメリカの離脱によって暗礁に乗り上げ、各国の経済政策は転換を迫られることになりました。中東や北朝鮮が抱える軍事的なリスク、今も交渉が続いている英国のEU離脱も国際情勢に色濃く影を落としています。

一方、物流業界においては、韓国の大手海運会社が破たんし、国内では大手船社がコンテナ船事業の統合を発表するなど、耳を疑うようなニュースが衝撃を与えました。また、ここ数年で顕在化した陸送ドライバー不足の問題はさらに深刻化し、貨物の輸送形態を陸送トラックから船舶や鉄道に変えるモーダルシフトが進んでいます。業界ではサービスや料金の見直しから働き方改革にまで問題が波及し、きめ細かい物流サービ

社会のニーズに対応して

政治と経済が流転する中、当社は2017年9月に創立65周年を迎えます。“65年”という言葉で言い表すのは容易ですが、今日に至るまでにもやはり、社会は何度も大きく変化してきました。

当社が創業した1952年は、日本が戦後の混乱を抜けて経済がようやく復興し始め、住宅用建材の需要が増加していた時期でした。そこで当社は港湾運送事業法に登録し、海外から名古屋港に輸入される木材の揚げ荷役を手掛け始めました。

1960年代になると経済成長と国産自動車の生産拡大が進み、日本では急速に自動車も普及していききました。いわゆるモータリゼーションの到来です。当時、自動車は自走で陸上輸送されるのが常でした。しかし、需要も供給も増え続ける自動車を自走で運ぶのには限界がありました。

こうした社会のニーズに対応するため、当社は大量

輸送手段である船での輸送を始めました。自動車という新しい貨物をいかに効率よく運ぶか検討と工夫を重ねた末、1962年、船の中にあらかじめ階層を作り、車が自走で船に乗り降りできる構造の船を就航させました。これが日本で最初の自動車専用RO/RO船「東朝丸」です。以来、船舶としての安全性と荷役のしやすさを追求して、船体構造や設備を進化させ続けています。現在は、国内最大級となる16,000総トンクラスの内航RO/RO船「清和丸」をはじめ、8隻の船舶を北海道から沖縄まで運航しています。

近年では、「世界の工場」と言われた中国から投資やトランスプラントが東南アジアに遷移してきたことを受け、ASEAN諸国への拠点進出を加速しています。今やASEAN10カ国中8カ国に現地法人や事務所を設け、サービスとネットワークを充実させています。

こうして当社は、お客さまと社会のニーズに応えながら事業を発展させてきました。

創業時の思いを胸に、未来へ向かって

今日のわれわれは、先人たちが創業時から道を切り拓き、伊勢湾台風の襲来やオイルショックなど幾多の困難を乗り越えながら拡大してきた事業基盤の上に立っています。創業者、そして諸先輩方のひたむきで前向きな姿勢に倣い、われわれも常にチャレンジする姿勢を決して忘れてはならないと考え、65周年のキーワードとして「原点回帰」と掲げました。社は「『和』の精神」に則ってお客さま、取引先、そして社員と家族との“和”を大切に、地域社会と環境に配慮しながら、創業時からの姿勢と想いを受け継いで果敢に挑戦を続けてまいります。

さらに先の未来へ向かうために、課題の一つと考えているのがCO₂の問題です。CO₂は地球温暖化の主な原因とされている温室効果ガスの中でも、特に注視されています。排出を削減するために世界規模で取り組

みが続けられていますが、各国の経済政策や利害関係のために足並みが揃わないのが実情です。

物流業者である当社は、貨物を輸送するために船舶やトレーラーの燃料として重油や軽油を消費し、CO₂を排出しています。排出量を低減させるために各種機器の導入や経済的な運航に努めてはいますが、自助努力だけでゼロにすることは不可能です。

そのため、CO₂を減らす努力とともに、CO₂を吸収させる取り組みを行っています。それが、北海道に設けた自社所有林「フジツボの森」です。森林の中でも木が薄いところを中心に造成し、植える→育てる→伐るサイクルを適切に行うことで、健全な森を保っています。177万㎡もの森林で育った木々とその足元の下草が、CO₂の吸収源として機能します。また、この森を社員の環境教育の場としても位置付け、毎年新入社員が植樹活動を行っています。

物流を通して社会に貢献

私たちの生活は、物流によって支えられています。遠方で採れた作物を近所のスーパーで購入したり、家いながら海外製品を取り寄せたりすることができます。物流の進歩は産業と経済を加速させ、生活を便利にし、今やあらゆる物がいつでも、誰でも、どこにいても手に入る時代になりました。しかし、その“当たり前”を維持し、より良い社会にしていけるために、われわれ物流業者にはさらなる工夫と革新が求められます。

われわれは、中期経営計画に掲げた“SHINKA”^{シンカ}を果たすために、現状に甘んじることなく弛まぬ努力を重ねる所存です。そして、社会に65年間育てていただいたことに感謝し、物流を通じて新たな価値を提供することで、引き続き社会に貢献してまいります。

会社概要

Company Profile

当社は、1952年に名古屋市港区で創業した総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に、海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は7隻の内航船舶を運航する船社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代にはモータリゼーションによる需要の増大を的確に捉え、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内約20拠点を有し、海陸一貫で車両・一般貨物輸送を行っています。

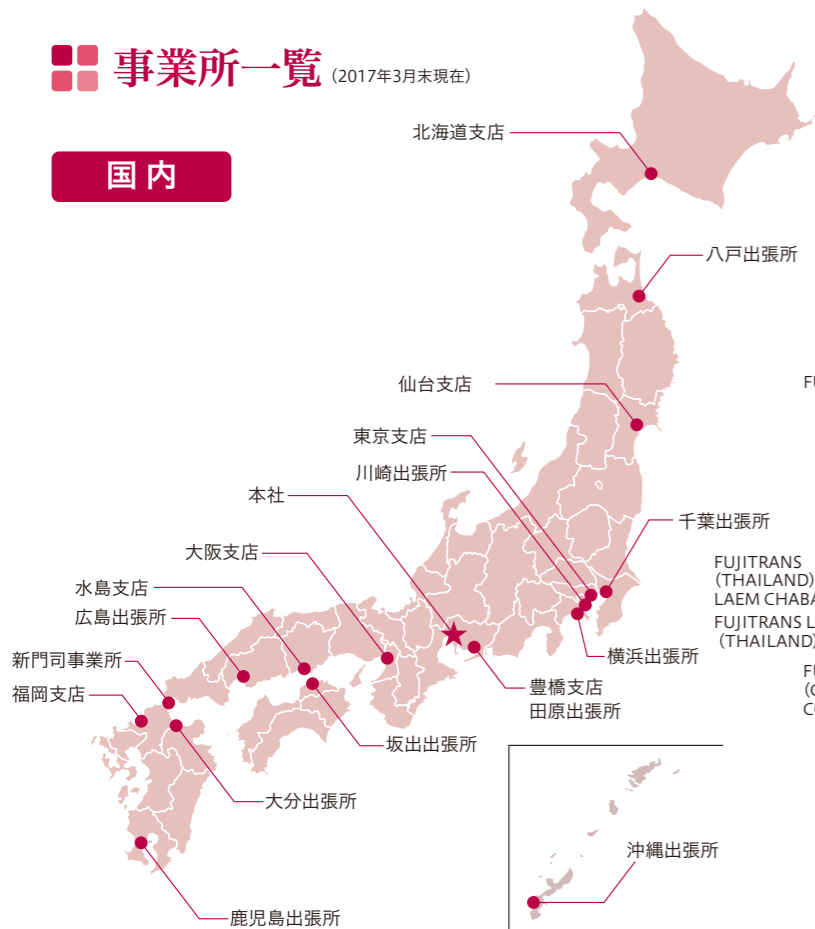
一方、輸出入の取り扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んでいます。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げたことから始まり、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などに業容を拡大しました。今では北米、欧州、中国、東南アジアの14カ国でサービス展開しています。

これらのネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

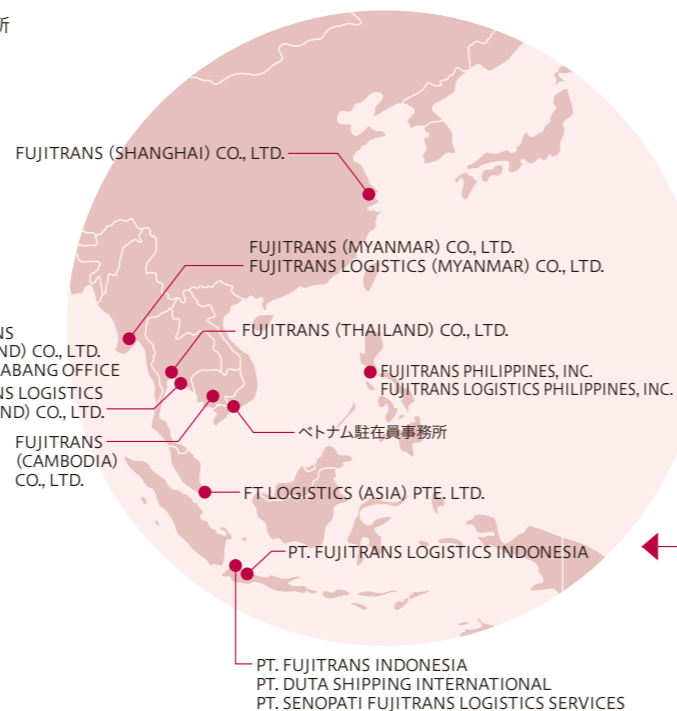
名称	株式会社フジトランス コーポレーション
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 系井 辰夫
従業員数	1,265人(2017年3月末現在)
主たる営業種目	<ul style="list-style-type: none"> ● 港湾運送事業 ● 内航海運業 ● 貨物利用運送事業 ● 航空運送代理店業 ● 通関業 ● 倉庫業 ● 梱包事業 ● 海上運送業 他

事業所一覧 (2017年3月末現在)

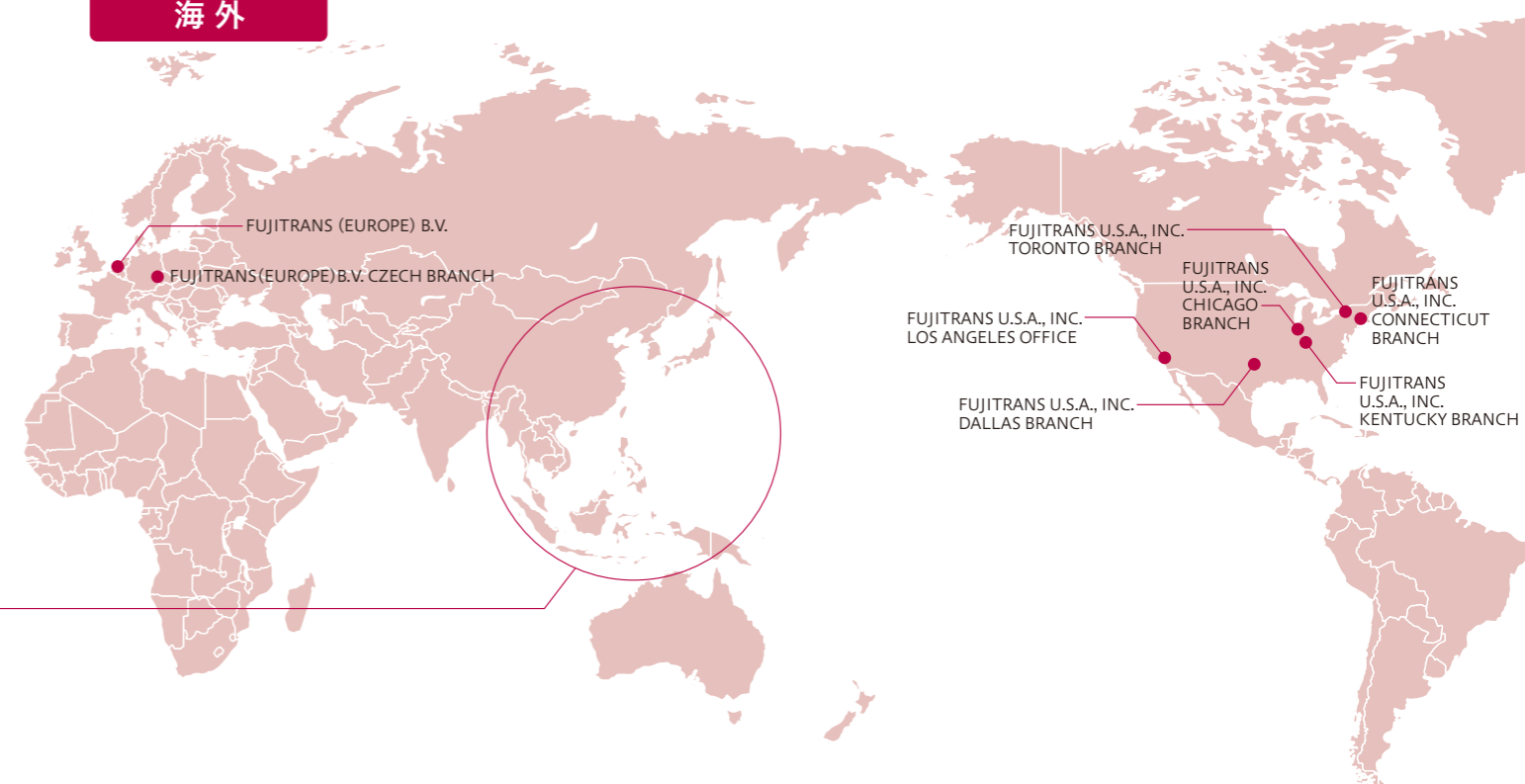
国内



東南アジア



海外



事業ハイライト (2016年度)

2016年4月

新・中期経営計画「ビジョン2018」を開始

シンカ「SHINKA」をキーワードに据え、3カ年の経営計画「ビジョン2018」を開始。

2016年6月

新造船の起工契約を締結

約10年ぶりとなる自社船舶の建造にあたり、造船所と起工契約を締結。

2016年8月

タイ現法 第二倉庫建設で取扱能力を強化

FUJITRANS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.がタイのレムチャバン地区で2014年から運営している第一倉庫の隣接地に、第二倉庫を建設。倉庫面積の拡大により、取扱能力を強化。

2016年11月

ジャカルタ市近郊で35,000㎡の梱包倉庫を開設

PT. FUJITRANS LOGISTICS INDONESIAが、ジャカルタ市近郊の工業団地G.I.I.C.内でインドネシアでは当社グループ初の自社梱包倉庫を建設。グループでは国内・海外含め最大規模。

2016年12月

青森県産品の輸送トライアルに協力

持続的に県産品を輸送できる仕組みの構築のために青森県が進めるロジスティクス戦略の一環で、八戸港から名古屋港まで農産品を海上輸送する実証実験に協力。

2017年3月

ベトナム駐在員事務所開設でASEANネットワークを拡充

ベトナムのホーチミンに、駐在員事務所を新設。ASEAN物流の発展を見込み、ネットワークを強化。



第二倉庫 / FUJITRANS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.



梱包倉庫 / PT. FUJITRANS LOGISTICS INDONESIA

生まれながらの環境経営企業です

～フジトランスの環境保護の取り組み～

今日、CSR活動の一環として、さまざまな企業が第六次産業^(※1)に取り組んでいます。当社は半世紀以上前から環境問題に関心をもち、農業・畜産業・漁業・林業に取り組んできました。当社の第六次産業への取り組みと、そのあゆみを紹介します。

(※1) 第一次産業の産品を加工し(第二次)、一般消費者に販売を行う(第三次)までを一括で手がけるビジネスモデル。(六次=一次+二次+三次)

多様化する環境保護活動

その昔、環境問題といえば排ガスや排水による環境破壊を意味しました。しかし今日、地球温暖化やオゾン層の破壊、食糧問題などが複雑にからみあい、環境問題は一企業だけの問題ではなく、私たち人類がみんなで知恵を絞って解決しなくてはならない問題となりました。

その中で多くの企業が環境経営(環境配慮型経営)を標ぼうし、CSR活動の一環として環境保護の取り組みを進めています。

一例として、社有林の森林整備活動があります。これは、地球温暖化対策と生物多様性の保全につながります。

当社でも、環境に負荷の少ないモーダルシフトの採用をいち早く進め、物流分野で環境に配慮した経営を行ってきました。また、グループ企業として岐阜県恵那市と北海道厚真町に農場、三重県尾鷲市に養殖場、さらに北海道共和町に森林を保有し、物流企業としては他に例のない本格的な農業・畜産業・漁業・林業を推進しています。環境保全・生物多様性保護活動の実践を通して、地域と社会に貢献してきました。

発端は社員の食料確保

当社の創業は1952年。まだ公害が社会問題として認知される前です。しかし当社は、当時から社是「『和』の精神」を掲げ、ただ自社のみが繁栄するのではなく、さまざまな企

業とさまざまな人々を幸せにすることで、社会全体の幸せに貢献する会社を目指してきました。言い換えれば、創業時から企業の社会的責任としての環境経営に取り組む企業であったということです。

当社が農業に本格的に参入するきっかけとなったのが、1959年の伊勢湾台風でした。特に当社の地元である名古屋市南部は土地が低く、高波で海岸堤防が破壊されると付近は一気に水没。さらに名古屋港の貯木場から直径1m、長さ10m、重量7～8tのラワン材が20万tも流出し、住宅街を壊滅させてしまいました。この時、同地区だけで1,500名もの人々が犠牲になったといわれます。

当社も、木材が散乱する名古屋港の復旧活動に参加しました。その時、被害者はもとより、復旧に関わる社員の炊き出し用の食料確保にたいへん苦勞をしたそうです。当時の経営陣はこれを教訓とし、「今後、せめて従業員の食料くらいは自分たちで作れる体制を整えなくてはならない」と強く思うようになりました。この経験が、食を通して社会貢献に取り組むきっかけとなりました。



伊勢湾台風当時の名古屋港(写真提供:名古屋港管理組合)

農業衰退に対する危機感

当社が目じたのは食料自給率の問題でした。伊勢湾台風直後の1961年、日本の食料自給率(カロリーベース)は78%(※2)。ほとんどの食料は自給できていました。しかし高度経済成長によって第二次・三次産業へのシフトが進めば農地が宅地化され、農業人口が大幅に減少することは確実と見られていました。第一次産業が衰退すれば、人間が生きる上で最も重要な食料は海外からの輸入に頼らざるを得なくなります。それは海運に関わる当社にとっても大きな関心事の一つでした。

そこで当社では、農場や養殖場の経営を行うなど、第一次産業を通じて食料の確保の問題に取り組んできました。また、北海道共和町で「フジツブの森」という森林を取得し、森林の保全にも力を入れています。

(※2) 今日の日本の食料自給率は40%を切りました。主食である穀物の自給率を見ても、OECD加盟34カ国中29番目という低さです。(農林水産省「食料需給表」/FAO「Food Balance Sheets」平成27年8月1日現在)

海洋と森林の密接な関係

よく「海運業者がなぜ森林を？」と尋ねられますが、実は海洋と森林には大きな関係があります。

日本列島は、起伏に富む急峻な山岳地帯と、豊かな森林に覆われています。この大地と植物が保水とろ過の役割を果たし、豊穡で安全な水資源を生み出しています。水は私たちに恵みをもたらした後、河川から海に戻り、蒸発して雲となり、雨となり、再び大地と植物を潤します。私たちは、海洋と森林をつなぐ大きな循環の中で生きているのです。

【循環型農業のイメージ】



一般的に「循環型農業」とは、家畜のたい肥による土壌改良と、その土地で栽培した作物で家畜を育てることで、農業全体を関連付けて好循環を作り出す手法を意味しました。しかし私たちは、かけがえのない地球に生きる一員として、より広い視野から農業・畜産業・漁業・林業を一つの巨大なサイクルと考え、この大自然の営みが永遠に持続できるシステムの実現に取り組んでいます。

カーボン・オフセットへの取り組み

海運業者ならではの森林との関係もあります。

一般的に、乗り物の燃料は原油から作られます。原油からLPガスやガソリン、ナフサ、灯油、ジェット燃料、軽油などが精製され、最後にアスファルトと重油が残ります。この重油の中で最も粘度が高い物が「C重油」です。価格が安く、低回転エンジンに向いていることから海運用の船の燃料として用いられます。大量輸送手段である船は、他の輸送機関と比べると単位輸送量当たりのCO₂(二酸化炭素)排出量は極めて少ないのですが、大量の燃料を使用するため、当社は年間約24万tのCO₂を排出していることとなります。

ところで、窒素酸化物などは地域的な大気汚染をもたらすことで知られていますが、CO₂などの温室効果ガスは地球のどこで削減しても効果は同じです。このため、地球上の別の場所でCO₂を削減すれば、自分が出したCO₂の影響を相殺することができます。これが「カーボン・オフセット」の考え方です。

そこで当社は2011年に、鳥取県と「とつとりの森『カーボン・オフセット』パートナー協定」を締結し、鳥取県の豊かな森林整備の促進と、地球温暖化の防止に取り組んできました。海を活動の舞台とする私たちのような海運業者にとっても、森林保護は重要な社会的責務なのです。

今後も私たちは、生まれた時から環境経営を続けてきたという誇りを胸に、事務所周辺の美化活動やビーチクリーン活動から、農業・畜産業・漁業・林業といった物流以外の業種への取り組み、さらにはそこから一歩足を踏み出して飲食業の展開まで、私たちにしかできない環境活動のあり方を模索し続けていきます。

環境経営の取り組みの歴史

今日、当社では畜産業・農業・水産業・林業・飲食業という多彩な事業を通して、第一次産業から第三次産業、そして第六次産業まで取り組んでいます。

【環境経営年表】

年	事業	年	事業	年	事業
1952	創業(藤木海運設立)	2010	●エフティファーム産サツマイモを使ったオリジナル焼酎「大いなる安らぎ」完成	2014	●エフティファームがマダイの販売開始
1959	伊勢湾台風襲来	2011	●エフティファームを北海道勇払郡厚真町に移転して、厚真ファームの養豚事業を事業譲渡	2016	●レストラン 豚かつぼう まいら開設
1982	●東海ミート買収(岐阜県恵那市)	2017	●エフティファームがマハタとウマツラハギの出荷を開始	●J Aコープ苫小牧で米愛豚の販売が開始	
1985	●厚真ファーム設立(北海道勇払郡厚真町)	●フジツの森(北海道岩内郡共和町)開設	●フジツの森で第1回植樹祭を開催		
2008	●厚真ファームがオリジナル豚の研究に着手	●鳥取県と「とつとりの森」カーボン・オフセット」パートナー協定」を締結			
2009	●エフティファーム開設(三重県尾鷲市)マハタの養殖を開始				
	●三重いなべ食育農場開設(三重県いなべ市)				
	●三重いなべ食育農場を法人化し、エフティファーム開設				

● 畜産業

東海ミート株式会社(岐阜県恵那市)

【出荷頭数】約18,000頭(豚)

東海ミート株式会社は、1965年に岐阜県恵那市で開業した養豚業者。当社では、社員やお客さまに良質で安全な食肉を食べてほしいという思いから、1982年に同社を買収。以来、総敷地面積18万2,000㎡(ナゴヤドーム3.8個分)の農場で、徹底した衛生管理体制のもとで食用豚の生産を手がけてきました。また地域貢献の一環として、農場でできた良質な完熟堆肥を近隣農家や住民に提供しています。



株式会社エフティファーム(北海道勇払郡厚真町)

【出荷頭数】約7,500頭(豚)

2009年、当社は三重県いなべ市に農業体験施設「三重いなべ食育農場」を開業。2011年には北海道勇払郡厚真町に機能を移転し、畜産農場「株式会社エフティファーム」がオープンしました。飼料に自社栽培米の「ななつぼし」を配合して育成するオリジナルブランドの「米愛豚(まいらぶた)」は、肉質が柔らかく、脂が甘くておいしいと評判です。加工したハムやベーコン・ソーセージは取引先に贈られるほか、J A経由で一部の一般市場でも販売されています。また、2016年2月にオープンした「豚かつぼう まいら」に主食材として食肉を提供しています。



● 農業

有限会社厚真ファーム(北海道勇払郡厚真町)

【農産品出荷量】約125t(ジャガイモ、カボチャ、スイートコーン、小麦、米)
【和牛出荷頭数】70頭

1985年、農業・畜産業を行うために北海道勇払郡厚真町に設立。91万4,000㎡(ナゴヤドーム19個分)の農場で、ジャガイモ、カボチャ、スイートコーン、小麦、米などの減農薬・無農薬による有機栽培を行っています。さらに牧草や飼料米といった家畜飼料の生産、和牛の生産・販売まで幅広く手がけています。



三重いなべ食育農場(三重県いなべ市)

2009年5月、農業実践の場として開設。エフティファームとして法人化しましたが、現在はその役割を終えました。

本格芋焼酎「大いなる安らぎ」

三重いなべ食育農場産で農薬や化学肥料を一切使用せずに作られたサツマイモを、岐阜県養老町の老舗「玉泉堂酒造」さんと蒸留していただいた本格芋焼酎。すべての作物を大切にしたい、大地の恵みを余すことなく活かしたいという思いが結実した名酒。飲むたびに、サツマイモの甘さが口の中に広がります。(現在は販売していません)

● 水産業

エフティファーム有限責任事業組合

(三重県尾鷲市)

【出荷量】約90,000尾(ウマツラハギ、マハタ、マダイ)

水産物の養殖と加工を行うため、2009年8月に当社と地元漁業者他の共同出資によって三重県尾鷲市で設立。ウマツラハギの養殖を行うほか、繁殖が難しいために「幻の高級魚」と呼ばれるマハタの養殖に成功しました。

2013年6月にはマダイの養殖を開始し、同年11月には伊勢神宮の式年遷宮に合わせて養殖魚を外宮に奉納しました。

今日では36基のいけすで養殖した魚を、式場レストランや寿司屋、グループのレストランなどに出荷しています。



● 林業

フジツの森(北海道岩内郡共和町)

【面積】1,774,860㎡(ナゴヤドーム 約36個分)

【状況】山林(現況:自然林)



海に注ぐ川を豊かにすることが、私たちのフィールドである海を育むことにつながる。この考えのもと、当社は2011年3月より北海道岩内郡共和町の森林組合と177万4,860㎡の森林を共同管理しています。

森林を健康に保つには「植える→育てる→伐る→使う」というサイクルを持続的に行き、長い目で森林を管理する必要があります。そこで同年10月、当社とグループ会社の社員・家族によって約200本のオニグルミとミズナラの苗木を植樹しました。その後も新入社員研修の中で毎年品種を変えて植樹を行い、環境保護活動の意義を一人一人の胸に刻んでいます。

● 飲食業

豚かつぼう まいら(愛知県名古屋市中区)

2016年2月、名古屋市の久屋大通駅近くにオープンした創作和食レストラン。厚真ファームで生産した高級米「ななつぼし」を贅沢に飼料に加え、エフティファームで育てた当社オリジナルのブランド豚「米愛豚」を堪能できるお店です。肉をじっくりあぶるローストや、寒い時期にぴったりのしゃぶしゃぶ、焼酎と一緒に6時間煮込んだ角煮など、米愛豚のおいしさを余すところなく味わい尽くせます。

物流業界では珍しい六次産業のビジネスモデルです。事業の多角化とともに、地域の一次産業活性化に貢献します。



法令遵守への思い

コンプライアンスはCSRの基本であり、公正な企業活動のよりどころとなるものです。当社はコンプライアンス体制の確立と維持を目的として各種勉強会や強化月間、意識調査を行い、全社員への啓蒙・啓発活動を推進しています。

Compliance

コンプライアンスへの姿勢

当社は社是「『和』の精神」に基づいた経営理念のもと、コンプライアンスの実践をCSRの一つと位置づけています。コンプライアンスの実践は、企業が社会的責任を果たし、社会から信

頼される企業であり続けるために必要不可欠です。高い倫理観を持ち、法令はもちろん、社会規範から社内規程、また、さまざまなルールやマナーを守りながら業務に取り組んでいます。

経営基盤の強化

Compliance

2016/9/1(木)~10/31(月)

コンプライアンス強化月間

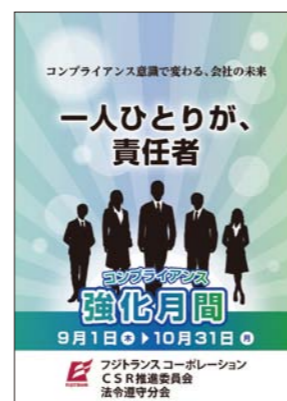
ビジュアル教育で法令教育を強化

一人一人がコンプライアンスについて、日頃の行動を見つめ直す「コンプライアンス強化月間」を毎年9月・10月に設けています。期間中は、コンプライアンス資料の配布や各事業所に啓発ポスターを掲示し、意識の高揚を図りました。

事務職員はイントラネットに掲載された解説資料を各自で熟読しました。例年、現業と梱包部門の役職者のみを対象に机上研修会を開いてきましたが、今年は全員を対象にすることを目的に、ビジュアル教育プログラムを設けました。金城オペレーションセンターや九号地分室などの主要な寄り場にある大型ディスプレイに教育資料を映すことで、短い時間でも見て学べるようにしました。



ビジュアル教育で学ぶコンプライアンス



2016/11/1(火)~11/8(火)

コンプライアンスアンケート調査

意識の向上を目指して

コンプライアンス強化月間終了後には、全従業員を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました。事前に公開された解説資料に基づいて勉強し、関係法令などに関する設問に回答するものです。2016年度は勤怠管理や贈収賄の禁止などの項目を新しく追加しました。従業員一人一人に求められ

ている知識や常識の理解度を調査することで、さらなるコンプライアンス意識の向上につなげています。

アンケート終了後には、解答と解説をイントラネットに公開しています。

出題テーマ

労働基準法(労働時間、勤怠管理、過重労働・健康管理、労働災害)、労働者派遣法、独占禁止法、下請法、贈収賄の禁止、セクハラ・パワハラ、マナー、モラル、重要方針

年間

勉強会の実績

業務に直結した教育

当社は関係法令を正しく理解し、誠実で公正な企業活動を継続するため、年間を通じてコンプライアンス勉強会を実施しています。業務への理解を深めるとともに、「法令」「規

則」「モラル」の遵守に高い意識を持った企業となることを目的としています。

4月

各種法令勉強会

対象者 新入社員
実施場所 本社
内容 業務に関わる各種法令についての説明

社会人になった新入社員を対象に「コンプライアンスの基礎知識」「会社の組織に関する法律」「取引に関する法律」などに関する勉強会を実施しました。コンプライアンス違反が起きた場合、企業にはどのような影響があるかを、具体的な事例を取り上げて説明しました。



社内講師によるコンプライアンス教育

5月

港湾運送事業法(第1回)

対象者 新入社員
実施場所 本社
内容 港湾運送事業の概要を説明

6月

倉庫業法

実施場所 本社
内容 倉庫業の概要を説明

7月

港湾運送事業法(第2回)

実施場所 九号地分室
内容 港湾運送事業の概要説明および具体事例について

8月

港湾運送事業法(第3回)

実施場所 九号地分室
内容 港湾運送事業の概要説明および具体事例について

労働者派遣法

実施場所 本社
内容 労働者派遣事業・労働者供給事業の概要説明および具体事例について

9月

港湾運送事業法(第4回)

実施場所 東京支店
内容 港湾運送事業の概要説明および具体事例について

貨物利用運送事業法

実施場所 本社
内容 貨物利用運送事業の概要説明および具体事例について

労災保険他勉強会

実施場所 本社
内容 労災保険の基本説明

労災保険・過重労働・健康管理についての勉強会を実施しました。実際に労災が発生した場合の判断や報告について周知することで、労災隠しの防止や賠償訴訟リスク低減などのリスクアセスメントにつながります。その他には「精神障害の労災認定」や「脳・心臓疾患の労災認定」についての説明も行いました。

10月

港湾運送事業法(第5回)

実施場所 本社
内容 港湾運送事業の基本説明

下請法・独占禁止法

実施場所 本社
内容 下請法の実務対応および独占禁止法の基礎知識について

11月

港湾運送事業法(第6回)

実施場所 本社
内容 港湾運送事業の概要説明および具体事例について

2月

港湾労働法

実施場所 金城オペレーションセンター
内容 港湾労働法の概要説明および具体事例について

内航海運業法

実施場所 本社
内容 内航海運業の概要説明および具体事例について

誠実な事業活動

Compliance

2016/4/1(金)

「フジトランスグループ行動規範」制定

倫理的な事業活動を行うために

当社グループのコーポレート・ガバナンスの一環で「フジトランスグループ行動規範」を2016年4月に制定しました。この規範は、企業倫理を確立し、社会の信頼を得ることを目的に、役員および派遣社員を含む全社員に適用されます。

「フジトランスグループ行動規範」

- 行動基準
- 情報の処理
- 環境の保全
- 事業活動
- 人権の尊重
- 社会との関係

2016/4/1(金)

ストレスチェック制度の導入

メンタルヘルス不調を未然に防ぐ

2015年12月1日に労働安全衛生法が改正施行され、企業に対し「ストレスチェック制度」の実施が義務づけられました。当社も2016年4月に運用規則を制定、6月から7月末にかけて全社員を対象とした説明会を実施し、9月にストレスチェックを実施しました。全体の97.5%が受検し、ストレスへの対処(セルフケア)のきっかけとなる結果表を受け取りました。今後も適正な制度運用を行い、メンタルヘルス不調者の減少に努めます。



2016/11/1(火)~11/30(水)

過重労働解消キャンペーン

残業を減らす取り組みを検討・実施

過労死等防止対策推進法に基づき、厚生労働省では「過労死等防止啓発月間」の一環として「過重労働解消キャンペーン」期間を設定しました。当社もこれに向けた取り組みを推進するため、11月にポスターを掲示し、啓発しました。

2017年2月には、経済産業省が主体となり官民が連携して推進する「プレミアムフライデー」が実施され、消費の拡大や働き方改革を目的とした活動が企業に期待されています。当社では、時間残業・過重労働対策の一環として「ノー残業デー」の実施や計画的な「半日有給休暇」、「有給休暇」の取得促進を検討・実施しています。



2017/1/1(日)

育児・介護休業法の改正への対応

仕事と家庭の両立を支援

従業員が子育てや介護と仕事を両立できるよう、育児・介護休業、短時間勤務など、育児・介護に関するさまざまな制度を設け、従業員を積極的に支援しています。

2017年1月1日に改正された育児・介護休業法では、育児・介護休業の取得要件の緩和、マタニティハラスメント・パタニティハラスメントの防止措置義務などが新設され、当社も規程を改定しました。今後ともワーク・ライフ・バランスの実現に向け、仕事と家庭を両立しやすい職場づくりを進めていきます。



2016年度に取得した人

- 育児休業を取得した人…10人
- 育児短時間勤務者…4人

毎月実施

健康講話会・個別健康相談会

生活習慣を見直すきっかけに

労働安全衛生法に基づき従業員の健康を守ることは、企業の社会的責任の一つです。当社は2006年から、「健康教育の日」と称して外部から保健師を招き、「健康講話会・個別健康相談会」を毎月実施しています。健康講話会は「心身両面にわたる健康づくり」をテーマとしています。個別健康相談会では、定期健康診断などで医師の所見があった人や長時間労働者などを対象に健康指導を行っています。



すぐにできるツボ押し体験

実施実績

4月~8月(開催場所:本社、丸の内分室、九号地分室、金城オペレーションセンター、飛島分室)

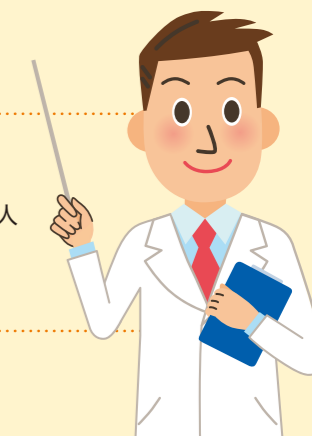
テーマ:「良い睡眠を取れていますか?」 合計参加人数/53人

9月~3月(開催場所:本社、丸の内分室、九号地分室、金城オペレーションセンター、飛島分室)

テーマ:「ストレスへの対処法~セルフケア編~」 合計参加人数/100人

9月に実施したストレスチェックへの理解を深め、日頃のさまざまなストレスを自分で対処するセルフケア方法を紹介。

個別健康相談会 合計参加人数/68人



毎月実施

弁護士相談の実施

弁護士による法律相談

本社で月1回、法律事務所の弁護士を招いて、法律相談会を実施しています。相談会では、法令の解釈や法的リスクの早期発見、コンプライアンス体制に関するアドバイスを受けています。仕事でのさまざまなトラブルや悩み事だけでなく、従業

員のプライベートな案件も受け付けています。2016年度は、最近の当社の海外進出に伴い、海外案件についての相談が増えました。

年間

内部監査室による内部監査の実施

会計・業務監査を実施

内部監査室は、内部統制が有効に機能しているかどうかをチェックするために、組織から独立した立場で監査を実施しています。2016年度は本社地区9部門、支店・出張所3部門、国内・海外関連会社5社を監査しました。結果は全て経営者

に報告する体制を整えています。

また、国内・海外関連会社の監査指針として、会計監査および業務監査に関わるガイドラインを作成し、各関連会社に展開しました。

安全の追求・品質の向上

当社は安全な物流の実現のために、日々の確認や訓練・教育などの努力を欠かしません。そして安全衛生管理体制や危機管理体制の充実を図り、大切な貨物はもちろん、従業員一人一人の安全確保に努めています。

Quality Control

Safety Management

管理体制

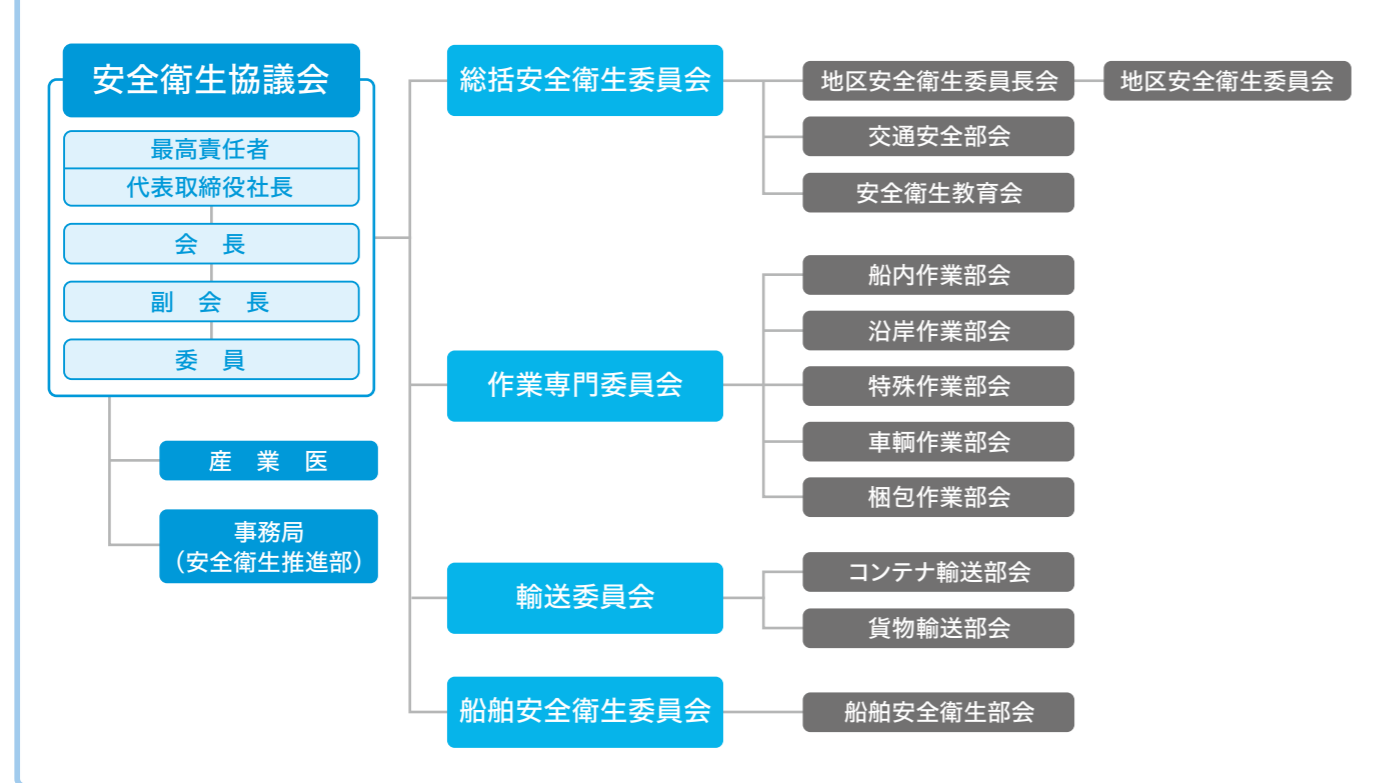
Safety Management & Quality Control

万全な管理体制を構築

安全は、総合物流企業としての重大な使命です。安全の徹底は、お客さまへの信頼につながり、事業全体のクオリティを高めることにも通じます。当社では「安全」と「品質」は一体と考え、安全衛生協議会を頂点とした強固な管理体制を構築し、徹底した安全管理に取り組んでいます。



【フジトランス安全衛生管理体制】



各種安全キャンペーン

Safety Management & Quality Control

上期:2016/7/1(金)~11(月)
下期:2016/12/1(木)~12(月)

ゼロ災キャンペーン

全ての事故ゼロ達成を目指して

フジトランスグループでは年2回、全国の事業所を対象に「ゼロ災キャンペーン」を開催し、従業員一人一人の安全意識を高め、安全安心な職場づくりの推進を図っています。期間中は「全ての事故ゼロ」を目標に掲げ、役員による現場巡視をはじめ、部門長・各専門委員会の巡視を強化し、グループ一丸となって安全確保に努めました。また、外部講師をお招きして上期は「熱中症予防」と「メタボリック対策」について、下期は「フォークリフト運転技能」をテーマに、安全衛生講話会を開催しました。今後も、従業員一人一人が安全意識を高め、決められたルールを守り、災害防止に向けた活動が確実に定着するよう取り組んでいきます。

スローガン

上期

見えますか?
あなたのまわりの見えない危険
みんなで見つける安全管理

下期

一人一人がルールを守り
新たな目標で安全確保



発会式には大勢の関係者が参加



代表者による行動目標タッチアンドコール



現場巡視でゼロ災唱和



船内荷役の作業手順を一つ一つ確認

各種安全キャンペーン

Safety Management & Quality Control

2016/10/11(火)~10/20(木)

酸素欠乏症防止キャンペーン

正しい知識と訓練で災害を防ぐ

過去の災害を再発させないために、毎年「酸素欠乏症防止キャンペーン」を実施しています。キャンペーンの一環として取引先や荷主様と合同で酸素欠乏症救助訓練を行いました。木材チップ船の船内で現業員が酸素欠乏症で倒れたという想定のもと、被災者(マネキン)近くに救命箱を降ろし、意識の有無の確認から、救急車への搬送までを訓練しました。

訓練終了後の所見では、多くの方から回を重ねるごとに練度が向上していると評価をいただきました。今後も実地訓練とともに、安全教育を行っていきます。



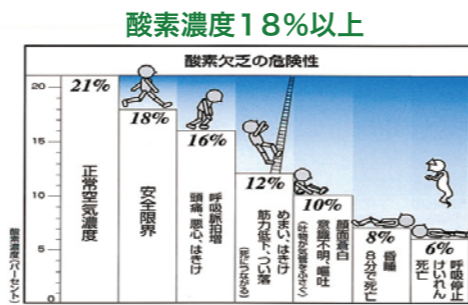
迅速に救命箱をセット



船内から被災者を救出

酸素欠乏症防止 キャンペーン

『適切な酸素測定を行い、
安全の証しをもって作業開始』



2016年10月11日~10月20日

フジトランス グループ
作業専門委員会

船舶安全活動

Safety Management & Quality Control

2016/11/29(火)・30(水)

経営トップ 乗船安全点検

経営トップによる航行中の巡視

経営トップによる乗船安全点検を毎年行っています。2016年度は11月29日から30日にかけて当社副社長が乗船し、鹿児島~沖縄間航路で安全点検を実施しました。

入出港時の乗組員の的確な作業指示や動作確認、航行中の目視、レーダーによる見張りなど航行状況を巡視した後、機関室や船内の4Sの徹底ぶり、貨物の固縛状況を点検しました。

点検後には、船員の日頃の労をねぎらって激励品を贈呈しました。また、年末・年始停泊中の注意事項などについて、乗組員全員と意見交換しました。



船内貨物の固縛状況を確認



航行中の目視は2人以上で



当社副社長より激励品を贈呈(右)

2016/11/1(火)~11/15(火)

フォークリフト安全運転強化キャンペーン

安全操作の技術を競い合う

毎年、「フォークリフト安全運転強化キャンペーン」を実施しています。フォークリフト作業には、お客さまからお預かりした貨物を傷つけることなく正確に取り扱う技術と安全への高い意識が必要です。キャンペーンを通じてフォークリフト作業従事者の運転操作の確認をするとともに、安全確認の重要性と、さらなる安全意識の高揚を図ります。

期間中には、11月10日の「技能の日」に合わせてフォークリフト技能競技会を行いました。グループ会社を含む作業従事者から選出された代表者10人が、作業手順と操作の正確性を競い合い、日頃磨いた技術を披露しました。



フォークリフト技能競技会の様子



安全かつ正確な技術を披露

2016/12/19(月)

緊急時海陸通報訓練

航行中の緊急事態にも、素早く全員で対応

毎年、航行中の船舶で起こりうる緊急事態に備えて「緊急時海陸通報訓練」を行っています。2016年度も、海運事業本部とグループ会社の鹿児島船舶(株)が、九号地分室で実施しました。

この訓練は、仙台港を出港後、名古屋港を目指して航行中の自社船舶「清和丸」に火災が発生し、船員に負傷者が出たという想定で行われました。会議室内で、航行中の本船側と陸上の事務所側に分かれ、本船側では関係各署への通報や消火活動、負傷者の搬送手順の確認、事務所側では本船からの通報に伴う関係各署への緊急連絡や緊急対応チームへの発令、合同対策本部の立ち上げなど、それぞれの対応手順を実践して確認し合いました。



事務所側の緊急対応チーム



一連の流れを細かく書き出す



本船側と事務所側に分かれ、連絡手順を確認

安全教育・訓練

Safety Management & Quality Control

2017/2/16(木)

全国安全会議

年間無事故・無災害の作業会社を表彰

当社の内航海運事業に協力いただいている全国の作業会社の、年間の無事故・無災害を表彰する「全国安全会議」も、今年で37回目となりました。全国の作業会社をはじめ、各支店・出張所の代表者が一堂に会し、1年間の安全活動の功績と功労をたたえるものです。2016年度は、22社に表彰状を授与しました。また、当社顧問である小松 啓一郎氏から「世界情勢の最前線」についてご講演いただきました。



世界情勢についての講演



当社顧問 小松 啓一郎氏



表彰状の授与

2017/2/22(水)

安全・安心職場づくり報告会

危険作業の洗い出しを図る

職場の安全性を高めることを目標とした、安全衛生協議会主催の「安全・安心職場づくり報告会」を行いました。海外拠点を含めたグループの全拠点が、それぞれの職場の実情に沿ったテーマを選定し、年間を通して実施して、その成果を報告するものです。今年度は13拠点の代表者が発表しました。事業所によって危険作業や危険箇所は異なるので、それらを洗い出し、改善を図るとともに、事例を全員で共有することができました。

今後も、安全と品質を第一に考え、グループ一丸となって業務を遂行していきます。



各部の報告を真剣な表情で聴講



各部から多くの関係者が参加

2016/7/20(水)・11/24(木)・2017/3/8(水)

激励の日

日頃の安全作業を労う

「激励の日」とは、当社役員が各事業所に足を運び、現場を支える現業員の日々の作業を労う活動です。それと合わせて、作業の注意事項や安全・品質保持のために安全作業徹底などの指導も行います。2007年の実施から今年で10年目を迎えました。また、懇談の席では、現業員から職場環境に対する改善の意見を聞き、働きやすい職場づくりへつなげます。



当社専務取締役から激励品を贈呈(右)



日々の作業の様子を巡視



懇談の席で現業員の意見を交換



役員が現業員に労いの言葉をかけます

予防安全

Safety Management & Quality Control

2016/4月・8月・12月・2017/2月

リスクを予見した安全啓発

過去の災害を教訓に

安全・品質分会では、災害を未然に防ぐ「予防安全」を推進しています。過去5年間に発生した災害事例データを基に、年間を通して事故が増加する時期や作業の種類、あるいは季節との関連性といった発生傾向をさまざまな角度から分析し、安全衛生推進部と連携して、リスクを予見した安全啓発を年2

回実施しました。

安全品質分会では、この取り組みを2017年度も継続し、現業職はもとより事務職への周知を図り、予防安全に努めていきます。

【2016年8月】夏の労働災害防止啓発



【2017年2月】繁忙期の物損災害防止啓発



船舶安全活動

Safety Management & Quality Control

毎月実施

船舶緊急訓練

乗組員全員が万々に備え

当社の管理船舶では、乗組員全員が不測の事態に迅速かつ冷静に対応し、貨物の保全や海洋汚染の防止、乗組員の救助を円滑に行えるよう、さまざまな実地訓練を行っています。

訓練は、火災・浸水・油流出対応訓練のほか、かじが切れなくなった場合を想定した非常操舵訓練や救命いかだの使用トレーニングなども行います。また、船員法や港則法、海上交通安全法などに関して船長を中心に机上教育を行い、安全の知識や意識を高めています。このような教育訓練で日々培ったノウハウや改善点を共有し、万々に備えた緊急対応体制をより強固なものにしています。



油流出対応訓練では細かいところまで確認



防災訓練で消火用ホースを点検



知識の蓄積を図る机上教育

環境への取り組み・社会地域とともに

Social Action

当社を育てていただいた社会・地域、そこに住む人々に貢献することは、当社のCSRの根源です。環境方針を策定して社員の意識を高め、当社にとって事業を支える大切なフィールドである港や海で、地球環境に配慮した活動を行っています。

Environment Protection

環境保全活動

Environment Protection & Social Action

2016年6月7日(火)・10月20日(木)

足船清掃

海上のゴミゼロを目指す

春と秋の2回、名古屋港内の海上と周辺河川の清掃活動を行いました。この活動は、会社の足船に乗り、水面のゴミをタモ網ですくって集めるものです。名古屋港の海と、それにつながる河川をきれいに保つために、毎年各部署から従業員が参加しています。約2時間かけて自社岸壁や事業所の周辺を船で回り、40ℓのゴミ袋で3袋分のゴミを回収しました。名古屋港がもっときれいになるよう、今後も力を合わせて取り組んでいきます。



足船に乗りこんで、出発



足船の上から、タモ網でゴミをすくいます
たくさんのゴミを回収しました

2016/06/27(月)~29(水)

新入社員グリーンオリエンテーション

環境保全の大切さを体感

毎年、新入社員研修の一環として北海道でグリーンオリエンテーションを行っています。植樹体験などを通じて当社の環境保全活動を知り、環境の大切さを学ぶことを目的としています。当社取締役引率のもと、新入社員ジェネラリスト18人が参加しました。

初日は、農業・畜産業を営むグループ会社の(有)厚真ファームがある厚真町で町内の清掃活動を行い、班に分かれて路上に落ちているゴミを拾いました。その後、(有)厚真ファームを訪問し、牛舎を見学しました。また、同社の社員の指導のもと、農地でニンジンやダイコンなどの種を植えました。

2日目は、岩内郡共和町にある社有林「フジツブの森」を訪

れました。森林の管理を委託している地元森林組合の方から地理的な特徴や樹種について説明を受けた後、森林の薄いところにグイマツ70本を植樹しました。CO₂の吸収源として、また、資材として立派に育つよう、一本一本丁寧に植えました。

植樹後、新入社員は、「当社では他にどんな環境保全活動ができるか」をテーマにディスカッションしました。終了後には、「当社の取り組みを体感できた。研修にご協力いただいた方々へ感謝するとともに、今後も継承していきたい」と話していました。



穴を掘って一本ずつ丁寧に植えていきます



森林組合の方々にご協力いただきました



班に分かれてそれぞれの企画を発表しました

快適な社会と地域づくり

Environment Protection & Social Action

2016/4/10(日)・07/10(日)

清掃奉仕活動

境内の清掃で地域に奉仕

福井県勝山市の平泉寺白山神社で毎年2回、清掃奉仕活動を行っています。

平泉寺白山神社は、霊峰白山の信仰の拠点として由緒のある寺社です。境内には一面に苔が広がって美しい景観を作り上げ、特に、現在は社務所になっている旧玄成院の庭園は国の名勝に指定されています。

毎年春と夏に行われる大祭に合わせ、社員が地元の方たちと一緒に境内を掃除しています。苔をはがさないように苔の上に積もった落ち葉や枯れ木を慎重に拾い集めました。掃除の後には、拝殿にお参りして心も清めました。



苔に気を付けて、ゴミだけを丁寧に拾います

2016/4/28(木)

海藻の養殖で障がい者施設を支援

水産事業で福祉に貢献

三重県尾鷲市で養殖・水産加工を行うグループ会社のエフティアアクア有限責任事業組合では、同市で障がい者の継続的な就労を支援している(株)きやまファームと連携し、同社の閑散期に新たな雇用を創出するため、「ヒロメ」の洗浄・乾燥・包装など製品化作業を委託しました。

ヒロメは千葉県南房総や和歌山県田辺など一部地域で食べられているワカメに似た海藻で、三重県の特産品です。

完成した「尾鷲ひろめ」は、水産と福祉の連携事業から生まれた商品として、社内販売を行いました。



ヒロメを巻き上げて収穫します



海洋深層水で洗浄します

2016年5月11日(水)

被災地支援

寄付で大震災発生 of 熊本県を応援

2016年4月中旬から九州で相次いで発生した地震により、熊本県では多くの方々が被災しました。九州地方に拠点を構える当社グループでは、被災者の救援と被災地区の復興事業を支援するため、当社副社長が熊本県庁を訪れ、熊本県知事に義援金の目録をお渡ししました。

また、グループの社員から寄せられた募金は、日本赤十字社を通じて被災地に寄付しました。



熊本県知事に目録を手渡す当社副社長(左)

2016/5/18(水)

放流事業

尾鷲で地域貢献 ウマヅラハギ放流

環境・社会貢献分会と三重県尾鷲市で養殖業を営むグループ会社のエフティアクア有限責任事業組合との共同企画で、グループで初めて放流事業を行いました。

エフティアクアは、購入した種苗(稚魚)をいけすで養殖しています。しかし、昨年は温暖化の影響か、天然の種苗がなかなか手に入りませんでした。そこで、エフティアクアが養殖している「ウマヅラハギ」の成魚を、養殖地の賀田湾で放流することを決めました。ウマヅラハギはもともと賀田湾周辺に生息しているので、放流した魚が卵を産んで数が増えれば、生物多様性の保護につながります。また、それを地元の漁業者が漁獲することで、漁業者の収益向上にもつながります。さらに、エフティアクアも種苗を手に入れやすくなるので、Win-Winになります。

行事には、新入社員と地元の三木小学校や賀田小学校の児童にも参加してもらいました。目的は、新入社員には当社が行う環境保護と社会貢献の取り組みについて理解を深めてもらうこと、児童には地元の海を大切にすることを意識してもらうことです。一般的に放流と言えば稚魚を放流することですが、ウマヅラハギの稚魚は小さく、他の大型魚など



【ウマヅラハギ】カワハギの仲間。淡白な白身で、肝もおいしい。秋から春にかけて旬を迎える。

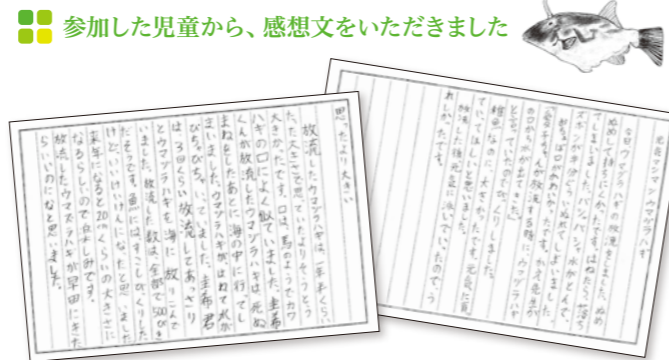
に捕食されてしまいます。そこで、今回は産卵できるほど大きくなった成魚約500尾を放流しました。魚が海流に乗って移動し、産卵することで湾の内外に生息域が広がることを期待しています。

参加した児童や新入社員は、バケツの中で跳ねるウマヅラハギに悪戦苦闘しながら放流していました。



大きく育つよう祈りながら放流しました

新入社員も活動に参加しました



参加した児童から、感想文をいただきました



2016/7/19(火)・11/16(水)・03/22(水)

事務所周辺美化活動

ゴミのない地域づくりに努める

本社をはじめISO14001の認証を取得している事業所で、周辺の清掃活動を実施しました。

7月には本社の周辺を清掃しました。例年は毎年6月に行っていますが、今年は事務所にほど近い名古屋港ガーデンふ頭で開催される「海の日名古屋みなと祭」で毎年たくさんのゴミが投棄されることを踏まえ、祭りの翌日に変更しました。路上はきれいでしたが、緑地帯の奥の方にゴミが隠れていたため、手を伸ばして拾い集めました。

11月には内航物流の拠点である九号地分室で秋季清掃活動を行い、本社サイト、九号地サイトの社員70人が参加しました。往来が多い道路脇にはたばこの吸い殻や空き缶、ペットボトルなどが散乱していましたが、全員で協力してゴミを回収しました。

3月には飛島分室や西浜コンテナヤードなど複数の事務所がある飛島地区を清掃しました。また、名古屋地区だけでなく全国の事業所でも、事務所周辺やヤード周りの掃除を行いました。

これからも、周辺地域の環境を意識し、美化に努めていきます。



緑地帯の奥のゴミも拾います



たくさん集めることができました

2016/7/20(水)

ビーチクリーン

ゴミを拾ってきれいな海岸に

当社では毎年夏に、愛知県知多郡美浜町の若松海水浴場でビーチクリーンを行っています。海岸のきれいな景観を維持するため、地元観光協会の方たちと連携して清掃しています。

海水浴客が来る前の早朝に、各部の代表者と環境・社会貢献分会のメンバーが広い海岸を歩いて回り、熊手を使って空き缶やペットボトル、包装容器、使用済みの花火などのゴミを拾いました。素足で踏むと危険な貝殻なども集めます。海岸に捨てられたゴミは、波をかぶって砂に埋もれてしまいます。そのため、重労働ですが、ふるいにかけて砂を落とし、分別して集めます。今年は空き缶などよりも海藻や貝殻などの漂着物の方が多く苦労しましたが、丁寧に拾い集めました。



熊手やふるいでゴミを集めています



きれいな海岸に戻りました

2016/10/06(木)・11/16(水)

小学生社会見学

観て学ぶ、自動車の行方

社会貢献活動の一環で、地元の産業を学ぶ小学生の社会見学を受け入れました。当社は、東海地方の重要な産業の一つである自動車産業を輸送面で支えています。工場で生産された自動車を日本全国に海上輸送する当社の物流拠点である九号地分室を、三重県いなべ市立山郷小学校5年生の児童53人、岐阜県養老町立上多度小学校5年生の児童33人が訪れました。

児童は自動車メーカーの組立工場を見学した後、九号地で当社の業務と、生産された自動車がどのように消費者の手に届くのかについて学びました。また、岸壁で本船荷役の様子を見学し、船内にどンドン運び込まれる自動車の列に釘付けになっていました。



バスの中から現場を見学する児童



メモを取りながら、熱心に説明を聞いていました

毎月実施

交通街頭立ち会い

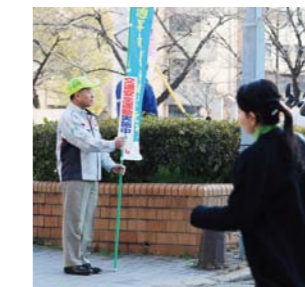
地域と共に交通事故ゼロを目指して

当社では交通安全部会が主体となって、事務所付近の交差点で交通街頭立ち会いを行っています。実施する場所は、名古屋市の本社地区・九号地地区・金城地区の事務所の近くです。

そのうち、ガーデンふ頭にある本社付近の交差点は地下鉄名古屋港駅の出口に近いので、通勤・通学の時間になると出社する人や車、登校する地元の子もたちで交通量が増えます。事故を未然に防ぐため、通行者に見えるようにのぼりやプレート掲げ、シートベルトの着用、交差点での一旦停止など、交通マナーの徹底を呼びかけています。

街頭立ち会いは、愛知県の交通安全県民運動に合わせて4月、7月、9月、12月に実施し、役員も参加します。それ以外の月

にも、交通事故死ゼロの日(0が付く日)に合わせて立ち会いを行っています。このように、会社の事業所や現場だけでなく、地域でも安全な環境づくりに貢献しています。



通勤で混み合う本社近くの交差点



マイカー通勤者の交通量が多い駐車場前

1 森を守る活動

● 新入社員グリーンオリエンテーション
フジツブの森 植樹実績 (本)

	造林	環境教育他	計
2013年度	14,050	70	14,120
2014年度	20,950	70	21,020
2015年度	7,980	70	8,050
2016年度	0	70	70



2 海を守る活動

● 足船清掃



● ウマヅラハギ放流

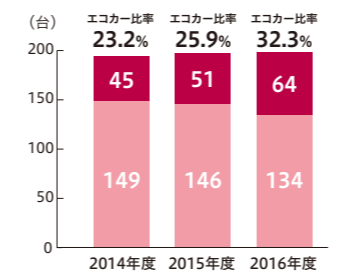


● ビーチクリーン

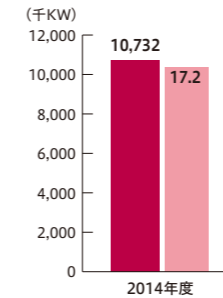


3 省エネ活動

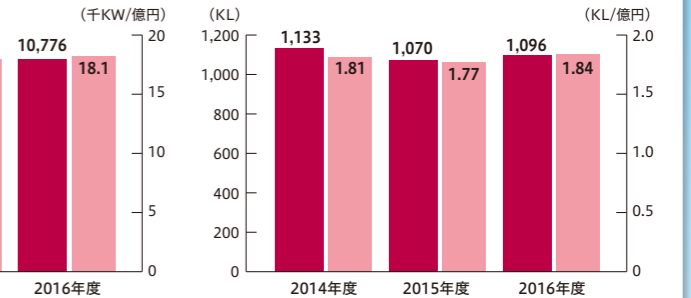
● 社用車に占めるエコカー比率の推移



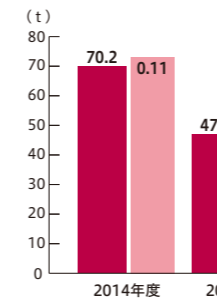
● 電気使用量の推移



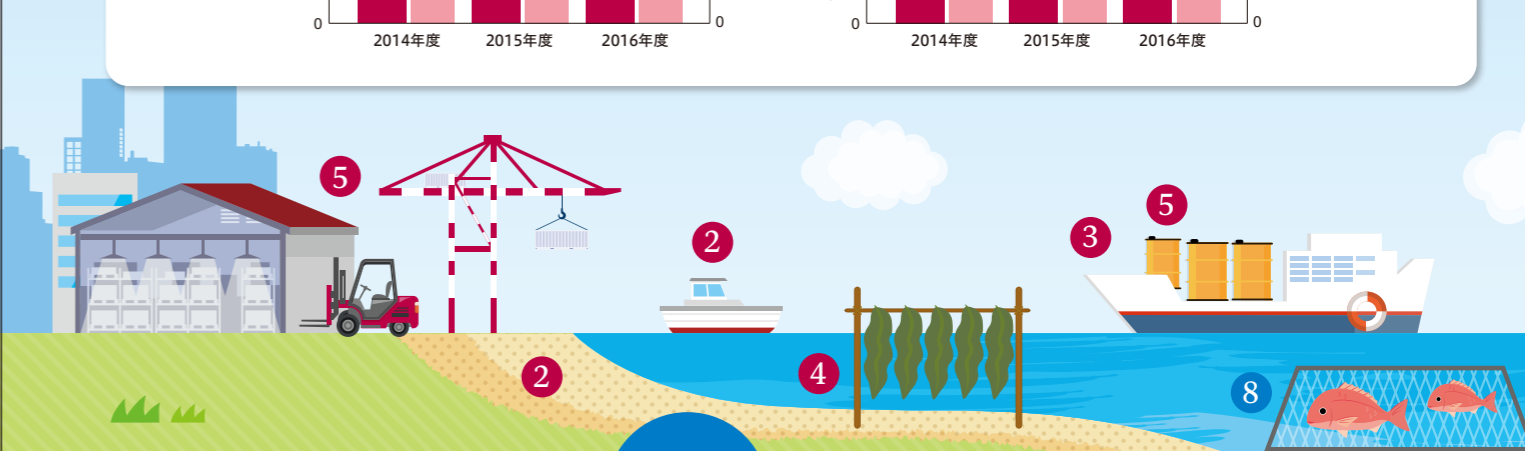
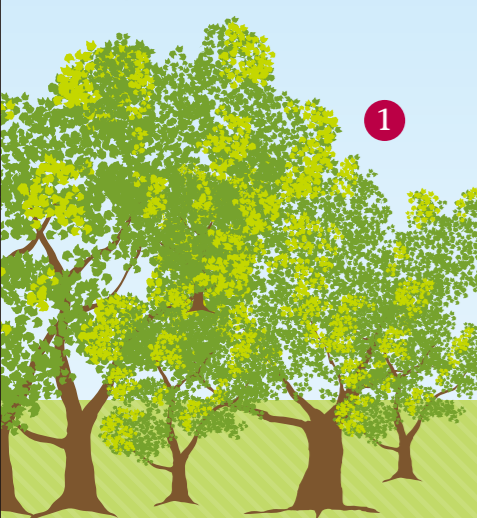
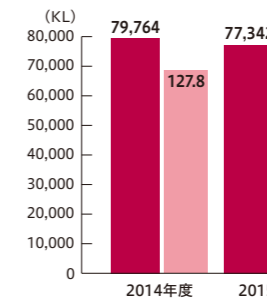
● ガソリン・灯油・軽油使用量の推移



● LPG使用量の推移



● A・C重油使用量の推移



4 地域貢献活動

● 被災地支援

● 事務所周辺の美化活動



● 街頭立ち会い



● 小学生社会見学



● 海藻「ヒロメ」の養殖



● 白山神社清掃奉仕活動 ● 被災地支援

5 安全のための活動

● フォークリフト安全運転強化キャンペーン



● 酸素欠乏症防止キャンペーン



● 船舶緊急訓練



● ゼロ災キャンペーン
● 緊急時海陸通報訓練
● 全国安全会議
● 経営トップ乗船安全点検

6 法令遵守の活動

● コンプライアンス勉強会



● 健康講話会・個別健康相談会



7 畜産業・農業

● 東海ミート



● エフティファーム



● 厚真ファーム



8 水産業

● エフティアクア



9 飲食業

● 豚かつぱう まいら

